



報道関係者各位

令和8年（2026年）6月12日

学校法人近畿大学

国立大学法人東海国立大学機構 岐阜大学

国立大学法人富山大学

国立大学法人東北大学

学校法人福岡大学

女性特有の症状・疾患への初期対応を支援 産婦人科医への全国調査で「必須漢方8処方」を明らかに

近畿大学東洋医学研究所（大阪府堺市）所長・教授 武田卓らの研究グループは、女性特有の症状に対して、優先的に学ぶべき漢方処方について、産婦人科医を対象に全国調査を実施し、共通して重要と考える「必須漢方8処方」を初めて体系的に明らかにしました。本研究により、更年期症状やPMS（月経前症候群）^{※1}など、女性診療で頻繁にみられる症状に対して、産婦人科以外の医師でも実践しやすい漢方診療^{※2}の基盤となる処方群が示され、今後、一般診療や産業医領域における女性診療支援への活用が期待されます。本件に関する論文が、令和8年（2026年）5月24日（日）に、日本産科婦人科学会とアジアオセアニア産科婦人科学会が発行する公式学術雑誌“Journal of Obstetrics and Gynaecology Research”（ジャーナル・オブ・オブステトリクス・アンド・ガイネコロジー・リサーチ）に掲載されました。



漢方診療のイメージ ※写真は生成AIです

【本件のポイント】

- 産婦人科医255人を対象とした全国調査から、女性特有の症状・疾患に対して一般臨床医が優先的に学ぶべき「必須漢方8処方」を初めて明示
- 加味逍遙散^{※3}、桂枝茯苓丸^{※4}、当帰芍薬散^{※5}などが、女性診療において産婦人科医が重要と考える漢方に一定の共通認識があることを確認
- 本研究で選定された8処方を基にした教育資材作成による、一般診療や産業界領域での女性診療支援への活用を期待

【本件の背景】

月経困難症、PMS（月経前症候群）、更年期症状、不安・不眠などの女性特有の症状は、産婦人科診療で多くみられます。一方で、地域や勤務環境によっては専門医をすぐに受診できない場合があり、一般臨床医や産業界が初期相談・初期対応にあたることもあります。こうした場面で活用しやすい漢方診療への関心は高まっていますが、一般臨床医が女性診療においてどの漢方処方を優先的に学ぶべきかは、十分に整理されていませんでした。

経済産業省による「女性特有の健康課題による経済損失の試算と健康経営の必要性について」の調査によると、月経症状や更年期障害などによる経済損失は年間約2.5兆円に上ると試算しており、働く女性の健康支援は社会的に重要性が高まっています。そのような中、日本の公的医療保険制度下で広く使用されている漢方治療は、産婦人科以外の医師でも理解しやすく、比較的導入しやすい治療法として注目されています。しかし、産婦人科医以外の医師が「どの漢方処方を優先的に学ぶべきか」はこれまで明確になっていませんでした。そこで本研究では、全国の産婦人科医を対象に調査を実施し、一般臨床医が優先的に学ぶべき「必須漢方8処方」を明らかにしました。

【本件の内容】

本研究では、令和7年（2025年）5月から9月にかけて、産婦人科漢方研究会会員1,421人を対象に匿名Webアンケートを実施し、255人の産婦人科医から回答を得ました。

回答者には、女性特有の疾患を主に診療している産婦人科医の立場から、女性特有の疾患に対応するうえで必要と考えられる漢方処方を最大8種類まで選択してもらい、各処方の推薦頻度を解析しました。その結果、「加味逍遙散」、「桂枝茯苓丸」、「当帰芍薬散」をはじめとする8処方が一般臨床医が優先的に学ぶべき「必須漢方8処方」として抽出されました。特に、「加味逍遙散」「桂枝茯苓丸」「当帰芍薬散」の3処方、婦人科領域で古くから「婦人科三大処方」として広く用いられており、月経関連症状や更年期症状への中心的な漢方治療として高い支持を集めました。また、医師の性別や臨床経験、漢方専門医資格の有無による大きな違いはみられず、産婦人科領域において広く重要と考える漢方の共通認識が形成されていることが示されました。

【論文掲載】

掲載誌 : Journal of Obstetrics and Gynaecology Research (インパクトファクター : 1.5@2024)

論文名 : Essential Kampo Formulas for General Clinicians Managing Female-Specific

Conditions: A Nationwide Survey of Obstetricians and Gynecologists in Japan

(女性特有の症状を診療する一般臨床医に必要な漢方処方—日本の産婦人科医を対象とした全国調査)

著 者 : 武田卓¹、磯部真倫²、永松健³、中島彰俊⁴、齋藤昌利⁵、四元房典⁶

所 属 : 1 近畿大学東洋医学研究所、2 岐阜大学大学院医学系研究科医科学専攻 生殖・発育医学講座 産科婦人科学、3 国際医療福祉大学成田病院産婦人科、4 富山大学医学部産婦人科学講座、5 東北大学大学院医学系研究科産科学・胎児病態学分野、6 福岡大学医学部産科婦人科学講座

U R L : <https://doi.org/10.1111/jog.70340>

D O I : 10.1111/jog.70340

【本件の詳細】

本研究では、月経困難症、PMS（月経前症候群）、更年期症状、不安・不眠などの女性特有の漢方診療を一般臨床医にも実践可能な形で整理することを目的として、産婦人科医による実践知を全国規模で集約しました。

調査では34種類の漢方処方を対象としましたが、推薦は一部の処方に集中しており、特に8処方が多く選択されました。このことから、産婦人科医の間で、女性診療において中核となる漢方処方が一定程度共有されていることが示されました。抽出された8処方は、更年期障害、PMS、頭痛、冷え、不安、不眠、倦怠感など、女性診療で頻繁にみられる症状に幅広く対応できる点が特徴です。

特に「加味逍遙散」は、更年期症状やPMSへの有効性を示した臨床試験報告もあり、女性医療における代表的漢方処方として位置づけられています。これらの結果は、一般臨床医が女性診療における漢方処方を学び始める際の手がかりとなるものです。今後は、今回抽出された8処方を基に初期研修医向け教育資料を作成し、一般診療や産業医領域における女性特有の症状・疾患への初期対応に活用されることが期待されます。

本研究成果は、一般診療や産業医領域での女性医療支援、漢方教育の標準化、さらには女性の健康課題への社会的対応強化につながることを期待されます。

【研究者のコメント】



武田 卓 (タケダ タカシ)

所属：近畿大学東洋医学研究所

職位：所長・教授

学位：博士（医学）

コメント：更年期障害やPMSなどの女性特有疾患の治療は、女性活躍推進の観点から注目されています。ホルモン補充療法やピルは有効ですが、産婦人科以外での導入には課題があります。一方、漢方治療は診療科を問わず処方しやすく、初期対応として有望です。今回選定された8処方を基に、全国6大学が中心となって初期研修医向け教育資材を作成中であり、今後、医学教育を通じて女性特有疾患への対応の裾野が広がることを期待しています。

【用語解説】

- ※1 PMS（月経前症候群）：月経前に起こる心身の不調。イライラ、不安、頭痛、むくみなど多様な症状が現れる。
- ※2 漢方診療：日本で独自に発展してきた伝統医学に基づき、患者の体質や症状全体を総合的に捉えて行われる治療。
- ※3 加味逍遙散（かみしょうようさん）：更年期症状、PMS、不安感、イライラなどに広く用いられる代表的な婦人科漢方処方。
- ※4 桂枝茯苓丸（けいしぶくりょうがん）：月経不順、月経痛、更年期症状、のぼせ、肩こり、冷えのぼせなど、血流の滞りに関連する不調に用いられる代表的な婦人科漢方処方。
- ※5 当帰芍薬散（とうきしゃくやくさん）：冷え、貧血傾向、月経不順、月経痛、むくみ、めまいなど、血行や水分バランスの乱れに関連する不調に用いられる代表的な婦人科漢方処方。

【本資料の配付先】

大阪科学・大学記者クラブ、文部科学記者会、科学記者会、厚生労働記者会、厚生日比谷クラブ、東大阪市政記者クラブ、堺市政記者クラブ、岐阜県政記者クラブ、宮城県政記者会、東北電力記者クラブ

NEWS RELEASE

【本件に関するお問合せ先】

学校法人近畿大学 医学部・看護学部・病院運営本部 総務広報課 担当：森井、橋本

TEL：072-288-7222 FAX：072-298-1500

E-mail：med.koho@itp.kindai.ac.jp

国立大学法人東海国立大学機構 岐阜大学 総務部広報課広報グループ

TEL：058-293-3377

E-mail：kohositu@t.gifu-u.ac.jp

国立大学法人富山大学 総務部総務課広報・基金室

TEL：076-445-6028 FAX：076-445-6063

E-mail：kouhou@u-toyama.ac.jp

国立大学法人東北大学大学院医学系研究科・医学部広報室

東北大学病院広報室

TEL：022-717-8032

E-mail：press.med@grp.tohoku.ac.jp

学校法人福岡大学 企画総務部広報課

TEL：092-871-6631（代） FAX：092-864-9415

E-mail：fupr@adm.fukuoka-u.ac.jp